

大和高田の牧村プラスチック

天然由来新素材で商品開発

生分解性の脱炭素社会構築へ「ペパレット」

プラスチック部品製造などの牧村プラスチック工業（大和高田市、牧村恵史社長）は、微生物などの働きで分解される生分解性プラスチックの新素材「ペパレット」を使用した製品づくりを本格化している。第1弾としてハンガーを商品化。今後脱炭素、循環型社会の構築を念頭に、暮らしに役立つさまざまな商品の開発に取り組む。

環境省の補助金活用 第1弾はハンガー

同社によると、ペパレットは木からつくる紙とトウモロコシ由来のポリ乳酸が主原料。原料全てが天然由来の素材のため、微生物などの働きで分子レベルまで分解され、水と二酸化炭素となって自然界に循環する。

焼却した場合も原料の木材が伐採後に更新されれば二酸化炭素が相殺され、カーボンニュートラルとなる。新素材の製品は短期間で分解が可能で、肥料としても活用できるといふ。

同社は石油由来の従来型のプラスチックが、リサイクルされずに埋め立てられたり焼却による二酸化炭素が地球温暖化につながったりする状況を懸念、約5年前に日本ペパロン社（東京都）が特許を持つペ



新素材で初めて商品化されたハンガー＝11日、大和高田市田井の牧村プラスチック工業

パレットと出会い、商品開発に向けて研究に取り組んだ。

2023年には脱炭素社会の構築を目的とする環境省の補助金も活用し、和歌山県岩出市にペパレット製造の自社工場を開設。新素材を使ったハンガーの製造にこぎ着けた。

同社は水を使わない乾式



天然由来の新素材「ペパレット」牧村プラスチック工業提供

写真をもっと 奈良新聞デジタル

工法でペパレットを製造、工程の短縮でコスト削減と大量生産を図る。また新素材の特性を生かした多方面の商品開発にも着手、需要が高まるヘルメットや食器、カトラリーなどの試作も始めている。

今後は異分野やさまざまな

使用済み太陽光パネル

再利用義務化へ議論

政府は13日、使用済み太陽光パネルのリサイクル義務化に向けた議論を始めた。2030年代以降に耐用年数を超えたパネルが大量に廃棄される事態に備え、再利用を義務付けるパネルの種類や設置形態、放置された場合の罰則などを詰める。来年の通常国会に関連法案の提出を目指す。

この日、環境、経済産業

両省が有識者会議の初会合を開催。太陽光発電は12年の固定価格買い取り制度

な年齢、経験を持つ人々との協働も想定。同社は「新素材を使った製品が環境への負荷が低いことを展示会などでアピールし、さまざまな立場の人と活用の方法を探っていきたい」と話している。



太陽光パネル

万ト排出されると推計。既にリサイクル法の枠組みがある家電や自動車と同程度に増えると予測する。家電は製造業者などにリサイクルの義務を課し、消費者が費用を負担している。太陽光パネルもこれを念頭に制度を設計する。義務化によりリサイクル施設が足りなくなるとの指摘もあり、処理能力の拡充策も検討課題となる。費用負担が高額になれば適切にリサイクルされず不法投棄につながる恐れがある。悪質な事業者がパネルを放置するケースも想定されるため、政府は課徴金を科すなどの罰則も検討する。

若者の30%超 転職を意識

経験者の半数 職場に不満

日本生産性本部が13日発表した若者の労働意識調査によると、転職活動をしているか、転職を考えているとの回答が合わせて30%超に上ることが分かった。ま

現場の働き方改善へ



コンテンツ産業の活性化に向けた官民会議の初会合後、取材に応じる俳優の大沢たかおさん＝首相官邸